

平成25年度弁理士試験論文式筆記試験問題

[民事訴訟法]

甲がしようと考えている次に掲げる行為は、それぞれ適法か。理由を付けて答えよ。ただし、上訴については、上訴期間の遵守の点は問題がないものとする。

【100点】

- (1) 被告が、その訴訟の審理を担当する裁判官について忌避を申し立てたところ、これを認める決定がされたため、原告甲は、この決定を不服として即時抗告をしようと考えている。
- (2) 被告甲は、訴状送達前からの訴訟無能力者で、その点について補正もされずに審理が進められた。甲は、一審で敗訴の本案判決を受けたので、この判決を不服として控訴を提起しようと考えている。
- (3) 原告が被告甲に対して200万円の貸金の返還を請求する訴えを提起したのに対し、甲が原告の主張する消費貸借契約を否認するとともに相殺の抗弁を主張したところ、裁判所は相殺の抗弁を認めて請求棄却とした。これに対し、甲は、この判決を不服として控訴を提起しようと考えている。
- (4) 甲は、乙と丙を共同被告として、乙の代理人と名乗る丙と金銭消費貸借契約を締結したと主張して、主位的に本人乙に対して貸金返還請求をし、丙が無権代理人であると判断される場合に備えて、無権代理人の責任の追及として予備的に丙に対して同旨の請求をする、という訴えを提起しようと考えている。
- (5) 甲、乙及び丙は、亡きAの共同相続人である。Aの遺産を分割するに当たり、乙は、ある不動産について乙の単独所有であるから遺産分割の対象とはならないと主張している。そこで、甲は、乙を被告として、その不動産について遺産確認の訴えを提起しようと考えている。